

Cisco E メールセキュリティ アプライアンスで 現行バージョンの AsyncOS からロールバックする にはどうしますか。

質問：

環境： Cisco E メールセキュリティ アプライアンス (ESA)、 AsyncOS のすべてのバージョン

要約：

AsyncOS では「復元」機能によりアプライアンスを以前のバージョンにロールバックできます。

以前のすべてのバージョンに復元できるわけではありません。

アップグレードでは、主要サブシステムが一方向で変換されるため、復元プロセスが複雑になります。 シスコでは、AsyncOS のさまざまなバージョンに対して特定バージョンの CASE、Sophos、VOF および McAfee が認定されています。復元が確実にシームレスとなるようにするには、ターゲットバージョンビルドがシスコにより承認されていることが必要です。以前のビルドをすべて使用できるわけではありません。一部の事前に定義されている復元だけが可能です。

復元には、アップグレードと同程度の時間がかかります。

ファイル システム リソースを節約するため、インストール メディアはアプライアンスに維持されません。復元プロセスではストリーミング、ダウンロード中の実行、インストールが必要です。

復元は破壊的な操作です。

作業キューまたはデリバリ キューに含まれているメッセージはすべて削除されます。すべてのレポート データとログ ファイルが削除されます。機能キー データのみが保持され、それ以外のすべての設定は失われます。すべてのデータベースとメッセージ トラッキング データは失われます。すべてのスパム検疫メッセージとエンドユーザ セーフリスト/ブロックリスト データ ネットワーク設定だけが保持されます。IP はデフォルトの 192.168.42.42 に戻るため、復元後にボックスへコンソールからアクセスする必要があります。デバイスを復元すると、即時に再起動します。再起動後、アプライアンスはそれ自体を再初期化し、もう一度再起動して所定のバージョンが復元します。

アップグレード前に、実行する可能性のある復元に備えて準備します。

ベスト プラクティスとして、次の手順によるアップグレードの準備を推奨します。

1. XML コンフィギュレーション ファイルをオフボックスで保存します (パスワードはマスクされません)。
2. セーフリスト/ブロックリスト機能を使用している場合は、そのリストをオフボックスでエクスポートします。
3. リスナーを中断します
4. メール キューとデリバリ キューを解放します。

5. スпам検疫セーフリスト/ブロックリスト データベースを別のマシンにエクスポートします (該当する場合)。

アップグレード完了後に必ずリスナーを再有効化してください。

方法：

1. CLI にログインします。
2. 「revert」と入力します。
3. ESA により以前にインストールされていた認定バージョンのリストが表示されます。
4. 復元バージョンを選択します。
5. 再起動します。
6. 1 番目の再起動：システムが起動し、ディスクの内容が消去され、インストール メディアが解凍されます。
7. 2 番目の再起動 (自動)：選択したバージョンを使用してシステムが起動し、フレッシュ データが初期化され、アプライアンスが起動します。
8. アップグレード時に保存した XML コンフィギュレーション ファイルをロードします。
9. 必要に応じて、セーフリスト/ブロックリスト ファイルをインポートします。